

平成25年住宅・土地統計調査結果の概要(北海道分)

1 総住宅数と総世帯数

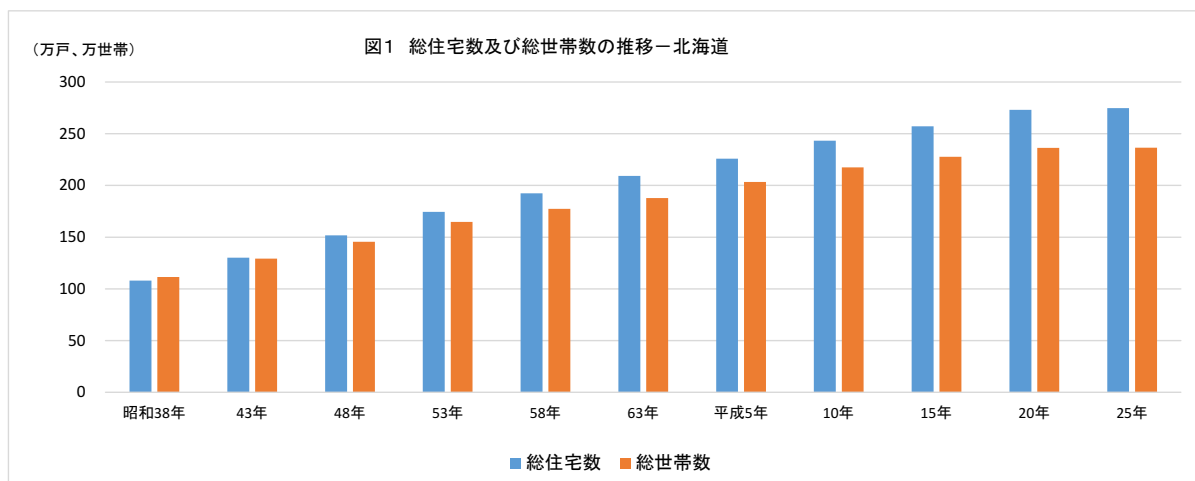
総住宅数は0.6%増加

平成25年10月1日現在における北海道の総住宅数は274万7千戸、総世帯数は237万世帯で、総住宅数が総世帯数を38万1千上回っている。

前回の平成20年調査に比べ、総住宅数は1万6千戸、0.6%増加、総世帯数は2千世帯、0.1%増加している。

一世帯当たり住宅数は1.16戸で、平成20年と同じ戸数となっている。

(統計表 表1)



2 居住世帯の有無

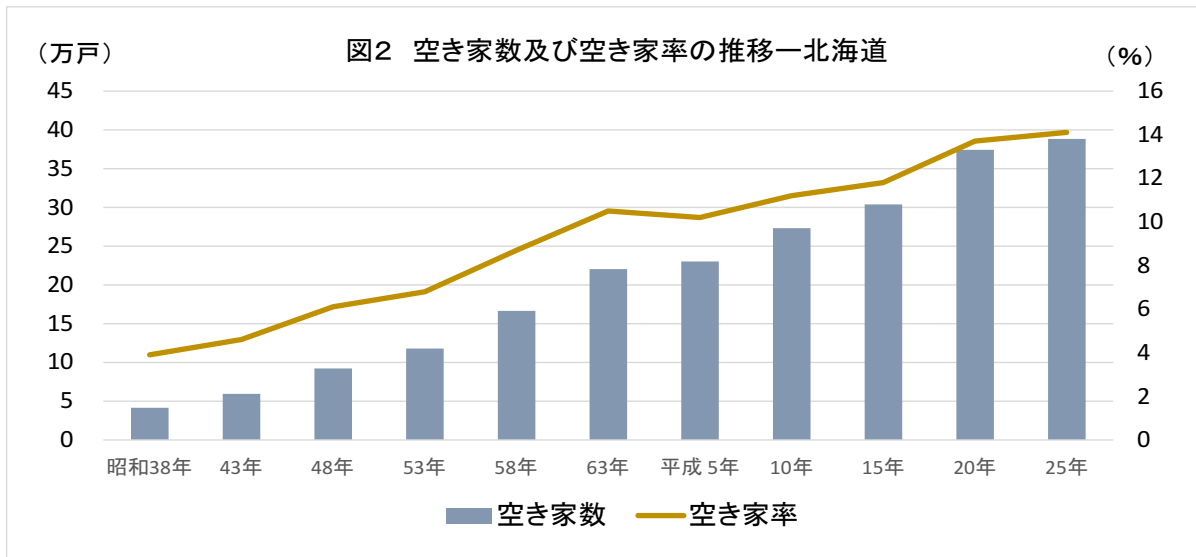
空き家率は14.1%と過去最高

総住宅数274万7千戸のうち、居住世帯のある住宅(ふだん人が住んでいる住宅)の数は234万6千戸で、総住宅数の85.4%、「空き家」など居住世帯のない住宅は40万1千戸で、14.6%となっている。

居住世帯のない住宅の大半を占める「空き家」は38万8千戸と、平成20年に比べ1万4千戸、3.7%増加している。総住宅数に占める空き家数の割合(「空き家率」)は14.1%と、平成20年に比べ0.4ポイント上昇し、過去最高となっている。

北海道の「空き家率」は、全国平均(13.5%)を0.6ポイント上回っている。

(統計表 表2)



3 住宅の建て方

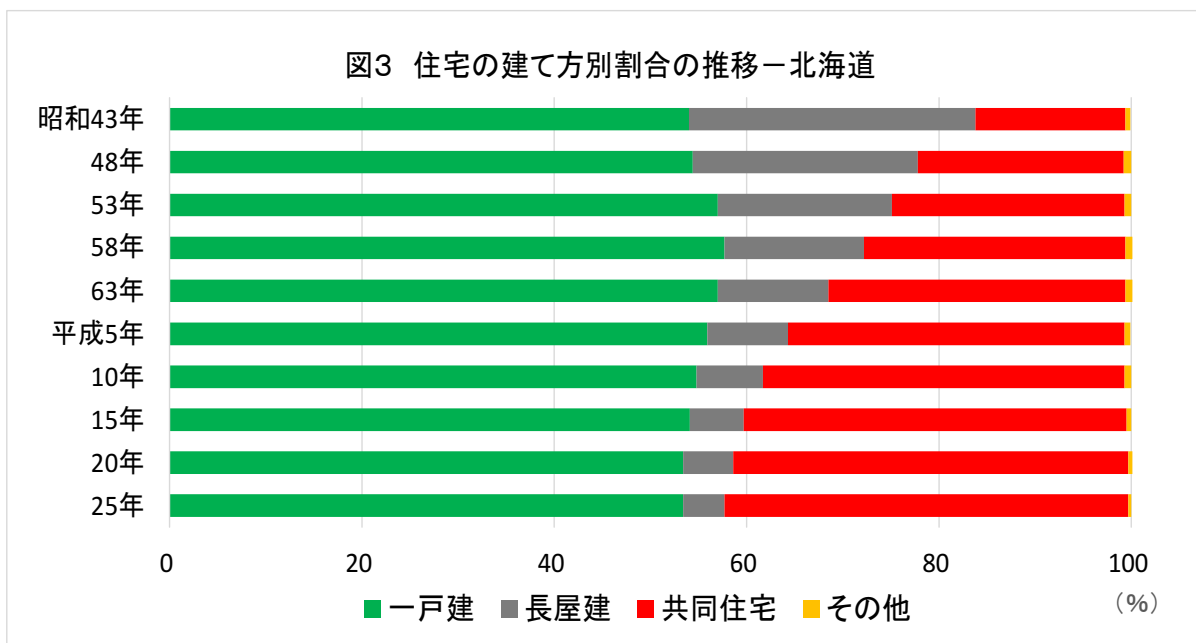
共同住宅の割合は拡大し、4割を占めている

居住世帯のある住宅を建て方別にみると、「一戸建」が125万3千戸で、居住世帯のある住宅の53.4%、「長屋建」が10万1千戸、4.3%、「共同住宅」が98万5千戸、42.0%、「その他」が7千戸、0.3%を占めている。

平成20年に比べると、「一戸建」が4千戸、0.3%増加、「長屋建」が1万9千戸、16.1%減少、「共同住宅」は2万3千戸、2.3%増加、「その他」が1千戸、16.9%減少している。

住宅に占める割合では、「一戸建」が昭和58年をピークに低下傾向にあるのに対し、「共同住宅」は一貫して上昇しており、平成20年に比べ0.9ポイント拡大している。

(統計表 表3)



4 共同住宅の階数

共同住宅の高層化が進行

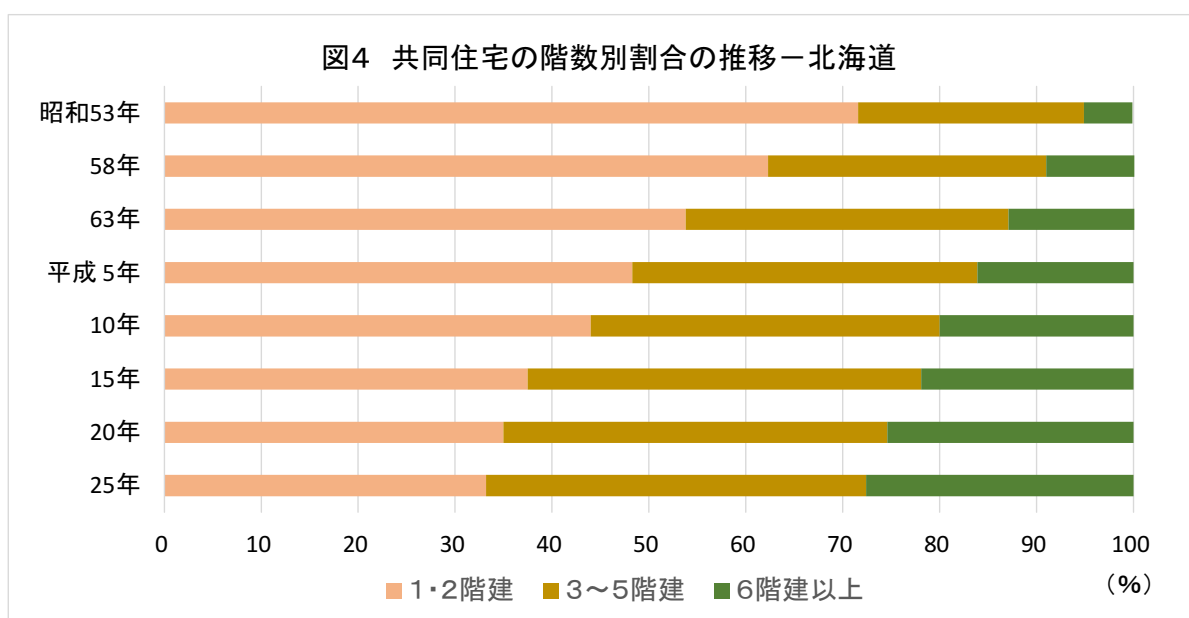
共同住宅を階数別にみると、「1・2階建」が32万7千戸で、共同住宅全体の33.2%、「3～5階建」が38万6千戸で、39.2%、「6階建以上」が27万2千戸で、27.6%となっている。

また、「6階建以上」のうち「11階建以上」が11万6千戸で、11.7%、「15階建以上」が3万戸で、3.0%となっている。

平成20年に比べると、「1・2階建」が1万戸、2.9%減少、「3～5階建」が5千戸、1.2%増加、「6階建以上」は2万8千戸、11.5%と著しく増加している。

さらに、「6階建以上」のうち「11階建以上」は19.9%、「15階建以上」は31.7%と、階数が高くなるにつれて増加率が高くなっており、共同住宅の高層化が進行している。

(統計表 表4)



5 住宅の所有の関係

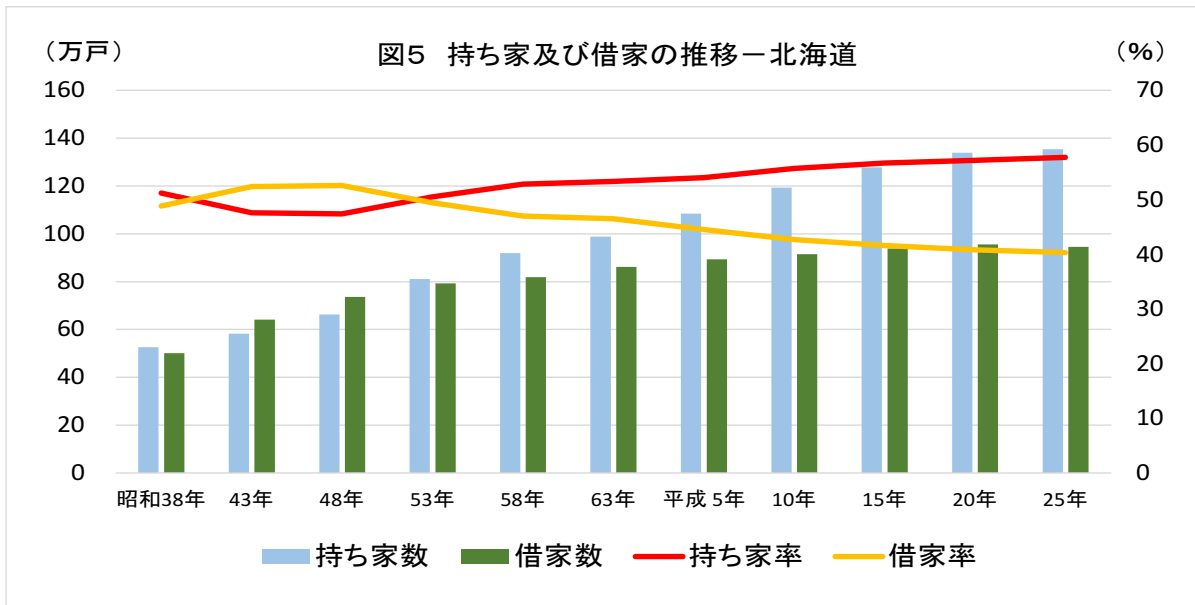
持ち家住宅率は57.7%に上昇

住宅を所有の関係別にみると、「持ち家」が135万4千戸で、平成20年に比べ1万5千戸、1.1%増加、「借家」が94万6千戸で、1万戸、1.0%減少している。

また、住宅全体に占める割合をみると、「持ち家」は57.7%（「持ち家住宅率」）で、平成20年に比べ0.5ポイント上昇、「借家」は40.3%で、0.5ポイント低下している。

北海道の「持ち家住宅率」は、全国平均（61.7%）よりも4ポイント下回っている。

(統計表 表5)



6 住宅の規模

専用住宅の1住宅当たり延べ面積は91.39㎡

居住専用に建築された「専用住宅」の規模をみると、1住宅当たり居住室数は4.40室、居住室の畳数は33.39畳、延べ面積は91.39㎡となっており、平成20年に比べ、居住室数は0.04室減少、居住室の畳数は0.01畳減少、延べ面積は1.32㎡、増加している。

全国平均に比べると、1住宅当たり居住室数で0.16室、延べ面積で1.58㎡、それぞれ下回っているが、居住室の畳数では0.84畳上回っている。

(統計表 表6-1 表6-2 表6-3)

